

特集 未踏ユースから育ったタレントたち

② 未踏ユースの魅力

後藤 真孝

産業技術総合研究所

IPA 未踏 IT 人材発掘・育成事業「未踏ユース」の魅力を一言で言えば、「人」である。情報処理分野において、個人の独創性が果たす役割は大きく、突出した1人の「クリエイター」（開発者）の力が大きな貢献につながる事例は多々ある。特にソフトウェア開発においては、個人あるいは少人数が実装したプログラムが、多くの人々に利用され、利便性の向上やより豊かな生活に寄与している。Webの普及で個人がそうした能力や成果をアピールするチャンスが拡大する一方、優れた個人や成果が膨大な情報に埋もれてしまう問題も起きている。それを解決する1つの鍵は、人と人とのつながりである。志を同じくする個人同士が出会い、協調し合うと、1人では達成できないようなさらに大きな発展につながる。これはクリエイター同士に限らず、クリエイターとそれを応援する人々との出会いでも同様である。未踏ユースが素晴らしいのは、こうしたクリエイター個人の力の発揮や、クリエイター同士や応援団とのつながりといった、重要な側面を総合的に支援する制度だからである。

私は、以前から未踏ユースが「面白い」ことを間接的に知ってはいたが、実際に自分が2009年度から、「プロジェクトマネージャ（PM）」の1人として直接かかわることになって、想像していた以上に面白いことが分かった。PMの主な役割は、やる気に満ちた若いクリエイター（25歳未満）を発掘・育成するために、プロジェクト提案の審査をして、採択されたプロジェクトに指導・助言し、応援することである。実際に自分がPM就任の依頼を受け、初めて体験した「ヒアリング審査」（書面審査の後の面接審査）では、クリエイターのプレゼンの素晴らしさと情熱に、とても大きな衝撃を受けた。その面接では、普段の研究活動では目にしないような多様なテーマに関する提案を2日間聞き続けるのだが、終わった後には、提案内容の面白さに加え、これだけ優秀な若い世代がいるのだという事実嬉しくなった。

クリエイターにとって、未踏ユースは、自分のやりたいプロジェクトをサポートしてもらって夢をかなえるチャンスを与えてくれる。必要な機材等の購入が直接可能なわけではないが、各自の人件費から購入するのは自由である。より良いプロジェクトにしていくためのアドバイスも、我々PMからはもちろん、同時期に採択されたクリエイター（同期）あるいは過去に採択されたクリエイター（OB）、さまざまな関係者から得られる。人脈も広がり、同期と親し



くなれるだけでなく、多方面で活躍中のOBたちとも交流できる。プロジェクト開始直後には、全クリエイータと全PM、さまざまなOBが泊まり込む合宿形式の「ブースト会議」が開催され、議論を深めながら交流する絶好のチャンスとなっている。この合宿で、もともと高いやる気が、さらに「ブースト」されるクリエイータも多い。プロジェクト終了時には、一般公開される「成果報告会」でアピールができ、プロジェクト後の活躍も含めて、世の中から注目・応援してもらえる可能性が高まる。スーパークリエイータに選ばれば、さらに注目が集まることもある。

一方、PMの立場からも、未踏ユースにはさまざまな魅力がある。自己の知見や経験に基づいて、プロジェクトの発展に向けたアドバイスをするのが主務だが、それと同時に、さまざまな分野の先端トピックの議論ができ、PM自身にとっても勉強になる。上述の「ヒアリング審査」も、クリエイータとPMとの真剣勝負としてワクワクするが、特に「ブースト会議」は面白い。皆が個々のクリエイータを応援しようという温かい雰囲気の中で、思いがけないようなさまざまなアイデアが飛び出して発想が広がっていく。もともと潜在能力の高いクリエイータが採択されているので、良い成果を出せる可能性は高いのだが、そこから数カ月間でいかに能力を伸ばしてあげられるかが、PMとしてのチャレンジである。クリエイータの開発現場を訪問してじっくりと議論したり、メールや遠隔会議での交流を通じて助言・応援したりしていく。「成果報告会」では、自分が主担当のクリエイータたちはもとより、他のPMが担当したクリエイータたちが目覚ましく成長している様子が分か

り、PM冥利に尽きる感動が得られる。若い世代が、短期間で大きく飛躍することが強く実感できるのである。

このように「未踏ユース」は本当に面白く、魅力的である。もっと多くの優秀な若手がこの制度を知ってチャレンジし、チャンスを活用して欲しい。未踏ユースでは、プロジェクト実施期間中に優れた成果を出すことはもちろん大切だが、それ以上に重要なのは、その後、クリエイータが各方面で活躍して世の中に貢献していくことである。未踏ユースを多様な立場から支えてくださっている方々に深く感謝しつつ、今後もクリエイータにさまざまな形でチャンスを与えたり、活躍の場を提供したりする応援を継続しただけを願っている。また、未踏ユースの各クリエイータには、ぜひいろいろな経験を通じて幅広い価値観や考え方を吸収して、今後の発展の土台を築いて欲しい。クリエイータとOBたちの未来の活躍が、本当に楽しみである。

(2011年10月11日受付)

後藤真孝 (正会員) m.goto [at] aist.go.jp

1998年早大大学院博士後期課程修了。博士(工学)。現在、産業技術総合研究所情報技術研究部門上席研究員兼メディアインタラクション研究グループ長、統計数理研究所客員教授、筑波大学大学院准教授(連携大学院)、IPA未踏ユースPMを兼任。